

# 地域の産業や食PR

## 倉敷で「龍の仕事展」

### 高梁川流域22社が出展

備中地域の商工会議一行委が主催。倉敷、総所や商工会でつくる実社、高梁、新見市の22

高梁川流域のものづくり企業が集う「龍の仕事展」が、倉敷市本町の倉敷アイビースクエアで開かれている。伝統の繊維製品、豊かな土壌から生まれた農産加工品などの産業や食が一堂に紹介され、地域の魅力を観光客らにアピールしている。24日まで。



高梁川流域の企業が手掛けた商品が並ぶ「龍の仕事展」

社が14ブースを構え、企業の歴史を紹介するパネルとともに、衣料、雑貨、食品などの自社商品約300種類を並べている。

倉敷市の老舗メーカーの帆布製バッグ、足袋型の靴、新見市の農家が栽培から加工まで手掛けたフルートマトのドレッシングやジャム、総社市のみを製

造会社の甘酒を使ったシャーベットなど、地域ならではの特色ある商品がずらり。マスクングテープを用いたクラフト体験、ひな人形の着物の端切れを使った缶バッジ作りなどのワークショップもあって、人気を集めている。

観光で訪れた東京都足立区綾瀬の会社員小谷翔太さん(28)は「備中の名産品や産業について一度に知れて興味深い。お土産に何か買って帰りたい」と話していた。

同展は、2010年の国民文化祭から毎年開かれており、9回目の会場では県内5大学の学生約20人が、インターンシップ(就業体験)で運営をサポートしている。

午前10時〜午後5時。問い合わせは実行委の久保田正彦事務局長(090-17502-6177)。(西平亮)